

学生大使 実施報告書

氏名:三浦 愛加

学部・学科(コース)・学年:人文社会科学部・人文社会科学科・総合法律/地域公共政策/経済マネジメントコース・1年

派遣先大学:ガジヤマダ大学

派遣期間:2025/02/26~2025/03/12

1 日本語教室での活動内容

日本語教室では、ひらがな・カタカナを教える人、日本語対話を教える人、漢字を教える人に分かれて教室を実施した。私は主にひらがな・カタカナを担当し、日本語を初歩から教えた。文字を一通り学んだ生徒には、「見る」「買う」と言った簡単な動詞や「服」「時計」と言った簡単な単語を教え、次に主語、目的語、動詞の日本語の語順や人称代名詞を説明した。その後例文を用いて英語から日本語に変換する練習や、上達してきた人には日本語から英語に変換する練習を行った。日本語に興味がある生徒が多く、その都度学びたいことを聞いてそれに合わせて授業を行い、日本語への興味関心を向上させられるように努めた。英語で文法や助詞の細かい違いを説明するのは難しかったが、こちらでも英語力をもっと上げたい、と前向きな気持ちになれる授業となった。

日本語教室の時間で1日限定で開催した文化交流会では、折り紙、習字、かるた、けん玉、あやとりを用意し、生徒に日本の文化に触れてもらった。私が担当した折り紙では、初めて折り紙をするという生徒が多く、鶴を折ったり、コマを作って遊んでもらったりなど楽しんでもらうことができた。

2 日本語教室以外での交流活動

放課後や週末はバディを中心としたインドネシア人に連れられて様々な場所へ足を運んだ。例えば、ボロブドゥール遺跡やクラトン王宮などの有名な建造物を訪れたり、バティック作りに挑戦したりをした。それぞれガイド等の詳しい解説も聞くことができ、これらの活動によって、インドネシアの地理や歴史、文化に対する理解を深めるとともに、さらなる関心を持つことができた。異文化理解の第一歩になれたと考えている。それ以外にも、移動時間や夕食の時間、宿舍のロビーでくつろぐ時間ではインドネシア人とは積極的に関わるように心がけ、宗教や教育についてなどの話を聞かせてもらった。特に宗教については、仲良くなった人でないと詳しく聞き入れない話であるため、この機会を活かして話を聞けて良かったと感じている。

3 参加目標への達成度と努力した内容

私が参加したいと思った理由はストレス耐性をつけ、精神的に強くなりたいと考えていたからである。海外を経験して多様な考え方を知り、自分を対象化してみることで、精神的な成長をとげることを目標にしていた。私はこの目標について達成度は90%であると感じている。努力した内容としては、インドネシア人とたくさん話すことでどのような考えで生きているのかを知って、自己と比較することを意識したことである。最初は、インドネシア人はみんなが明るく、楽しく、ポジティブに生きている人たちだ

というイメージから始まった。しかし、関わっていくうちに、内気で「どうして自分には友達ができないのか」と悩んでいるネガティブ思考のインドネシア人もいるし、適当に生きているようで真剣に勉強に取り組んでいるインドネシア人もいるし、宗教に対しても、緩い人、しっかり守る人さまざまいることが分かった。ひとりひとり陽気な人もいれば静かな人もいて、本当に様々な人が存在するし、インドネシア人に限らずみんな同じく人間だ、と改めて感じられた。例えば「日本人は静か」「インドネシア人は陽気」といったように民族などでひとくくりすることなく、ひとりひとりの人間を見て、そこにはそれぞれの個性が存在する、ということを感じて生きていきたいと強く思った。そして、私も広い世界の中の1人にすぎない、ということを考えたら、今まで悩んでいたことがちっぽけであるように感じた。また、インドネシアの虫が多い部屋や汚いトイレも、時間が経つにつれて「そんなこともあるよね」というマインドで居られるようになり、気持ちが楽になった経験もした。これらの経験から確精神的に強くなれたのではないかと考える。

4 プログラムに参加した感想

私はこのプログラムに参加して本当に良かったと思っている。まず、人として成長できたからである。世界を見て、自分の中の勝手な常識が世界の常識ではない事、さまざまな人が共に生きていることを知れたことは、それまでの自分を客観視でき、これからの生き方をよりよいものにしていけると確信している。次に、世界に友達がたくさん作れたからである。日本に帰ってからもSNSで会話がが続いている日本語教室の生徒もいるほどみんなと仲良くなれて、とても楽しい日々を送れた。また、学生大使の仲間ともほぼ初対面の状態からスタートするにも関わらず、ずっと一緒に生活した結果とても仲良くなれたことを嬉しく思う。最後に自分の勉強意欲も刺激されたからである。インドネシアにはインドネシア語、ジャワ語、英語がペラペラの上、日本語も結構喋れる人が多くいた。日本語教室においても、とても意欲的に日本語を学んでくれてうれしかったのを覚えている。そんな姿を見て、私も英語を頑張らないと、と強く思うとともに、インドネシア語にも挑戦してみたいという勉強へのモチベーションを向上させることができた。今まで英語勉強は成績のため、としぶしぶ取り組んでいたが、これからはインドネシア人に限らず世界の人とコミュニケーションを円滑に取りたい!という前向きな気持ちで勉強ができそうだ。このような気持ちにしてくれたことに感謝している。たくさん新しい経験ができて、最後まで日本に帰りたくないと思うほどに、充実した最高の2週間を送れたことを幸せに思っている。

5 今回の経験を踏まえた今後の展望

私はこのプログラムを通して、外国に行くこと、外国人とつながることに今まで以上に興味を持てた。そして新しいことに挑戦する楽しさも理解した。したがってこれから積極的に多くのことに挑戦してみたいと思った。プログラム参加前は、海外は日本より環境が良くないというイメージから、海外で生活することに抵抗をもっており、絶対に日本国内で仕事をしたいと思っていたが、今回の経験から、環境の変化も徐々に適応できるものなのだ、意外となんとかなるものだ、と分かった。そのため、今は将来もぜひ海外と繋がれる仕事がしたいと思ったので、これからどのような仕事があるか調べてさらなる経験を積んでいきたいと考える。

6 現地での活動写真

写真1

日本語教室



写真2

ボロブドゥール遺跡の前で記念撮影



写真 3

文化交流会



写真 4

空港でお別れ写真

